



Yokohama Arts Foundation

横浜美術館 2018 年度企画展スケジュールが決定！



撮影：笠木靖之

2018年度、横浜美術館では4つの企画展を開催します。また、横浜美術館が誇る多彩な収蔵作品を紹介する横浜美術館2018年コレクション展（Ⅰ～Ⅲ）も開催します。

横浜美術館ならではの視点で展開するこれらの展覧会を、ぜひ多くの方にお楽しみいただきたく、広く報道いただければ幸いです。

※2017年11月28日時点の予定です。

今後変更が生じる場合もございますこと、予めご了承ください。

■企画展

ヌード NUDE—英国テート・コレクションより	2018年3月24日（土）— 6月24日（日）
モネ それからの100年	2018年7月14日（土）— 9月24日（月・休）
駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙 ルドンを愛した銅版画のパイオニアとその時代	2018年10月13日（土）— 12月16日（日）
イサム・ノグチと長谷川三郎 —変わるものと変わらざるもの	2019年1月12日（土）— 3月24日（日）

■横浜美術館 2018 年コレクション展

横浜美術館 2018 年コレクション展Ⅰ	2018年3月24日（土）— 6月24日（日）
横浜美術館 2018 年コレクション展Ⅱ	2018年7月14日（土）— 12月16日（日）
横浜美術館 2018 年コレクション展Ⅲ	2019年1月4日（金）— 3月24日（日）

ヌード NUDE—英国テート・コレクションより



世界屈指の西洋近現代美術コレクションを誇る英国テートの所蔵作品により、19世紀後半ヴィクトリア朝の歴史画から現代の身体表現まで、西洋美術200年にわたる裸体表現の歴史を紐ときます。フレデリック・L・レイトンの神話を題材とする理想化された裸体像、ピエール・ボナールの室内の親密なヌード、オーギュスト・ロダンの大理石彫刻《接吻》、シュルレアリスムの裸体表現、フランシス・ベーコンの人間の真実に肉迫する絵画、シンディ・シャーマンら現代作家による作品など、絵画、彫刻、版画、写真約130点をとおして、ヌードをめぐる表現がいかに時代とともに変化し、また芸術表現としてどのような意味をもちうるのかを考察します。

オーギュスト・ロダン《接吻》1901-4年 ペンテリコン大理石 h.182.2×121.9×153 cm テート

Tate: Purchased with assistance from the Art Fund and public contributions 1953, image © Tate, London 2017

モネ それからの100年



印象派を代表する画家、クロード・モネ（1840-1926）。その芸術のもつ獨創性、創作上の関心は、後世の作家たちにさまざまな形で引き継がれています。本展では、モネの初期から晩年までの絵画約 25 点と、抽象表現主義から最新世代に至るアーティスト約 30 作家の作品とを一堂に展覧し、両者の時代を超えた結びつきを浮き彫りにします。画面にちりばめられた色彩の鮮やかさ、うち震える描線、フレームを越えて拡張していくような画面、そして風景のなかに没入していく眼差し・・・モネの作品のうちに認められる多面的な特質を現代アートに接続することで、「印象派の巨匠」という従来の肩書を超える、モネの芸術の豊かさと奥深さ、その普遍的な魅力に迫ります。

クロード・モネ《睡蓮》1906年 油彩、キャンバス 81.0×92.0 cm 吉野石膏株式会社(山形美術館に寄託)

駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙 ルドンを愛した銅版画のパイオニアとその時代



駒井哲郎（1920-1976）は、深淵な詩的世界が刻まれた白と黒の版画によって国内外で高く評価され、日本における銅版画の先駆者となりました。駒井は、生涯を通じて美術家のみならず、音楽家や詩人といった芸術家たちとの交流を糧に、新たな表現を切り拓きました。わけてもルドンへの敬愛は、色彩豊かなモノタイプの作品群を生み出し、色彩画家としての彼の才能を今日に伝えていきます。本展では、初期から晩年までの駒井作品の展開を経糸とし、様々な芸術家たちと本作家の交流を横糸とすることで、駒井芸術の多面性を浮かび上がらせます。駒井の版画や舞台美術、装幀の仕事など計約 200 点とともに、関連作家作品約 50 点を展示し、音楽や文学との有機的な繋がりによって紡ぎ出された、豊穡な世界をご紹介します。

駒井哲郎《海底の祭》1951年 メゾチント、ソフトグランドエッチング(単色) 23.9×17.2 cm 横浜美術館
©Yoshiko Komai 2017/JAA1700146

イサム・ノグチと長谷川三郎—変わるものと変わらざるもの



日米の血をひく彫刻家イサム・ノグチ（1904-1988）と、モダン・アートと古来の美との親和性を主張した画家長谷川三郎（1906-1957）の作品（彫刻、絵画、版画、素描等）約 90 点による展覧会。二人が出会った 1950 年代を中心に、両者が目指した日本美術や東洋思想とモダニズム美術との融合とは何か、また、それぞれの作品にそれがどのように現れているかを辿ります。米国イサム・ノグチ庭園美術館とサンフランシスコ・アジア・アートギャラリーとの共同企画展で、国内では横浜単独開催の後、米国へ巡回します。米国ノグチ美術館、長谷川家ご遺族所蔵作品に、日本からの代表的作品を借用して構成します。横浜美術館としても東西美術の交流は重要な研究・収集のテーマです。1950 年代、ノグチは北鎌倉、長谷川は辻堂に住み、二人の交友は神奈川美術史にとっても注目すべき一時代を彩っています。

イサム・ノグチ《死すべき運命》1959年(1962年鑄造)ブロンズ h.182.9×50.8×45.7 cm 横浜美術館
©2017 The Isamu Noguchi Foundation and Garden Museum/ARS, New York/Jaspar, Tokyo
C1839

お問合せ先 *本日は 17 時まで在席しております。

横浜美術館 【公益財団法人横浜市芸術文化振興財団】横浜市西区みなとみらい 3-4-1 045-221-0300(代表)
経営管理グループ グループ長 古賀 Tel 045-221-0307
広報・渉外チーム 広報担当 鈴木、藤井、^{かいと} 堀内、山崎 Tel 045-221-0319